まつら

在籍数
（2022年７月１日現在）

１年	男	81名	
	女	63名	（計144名）
２年	男	78名	
	女	77名	（計155名）
３年	男	71名	
	女	81名	（計152名）
合計	男	230名	
	女	221名	
	合計	451名	

発行所
唐津市町田字大山田1992番地
TEL 0955-72-7184
佐賀県立唐津西高等学校振興会
発行人　濱道　正和
編集人　振興会広報部会

振興会会長の挨拶

唐津西高等学校振興会会長　濱道　正和

日頃より本校振興会活動に対し、ご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。さらに今回、唐津西高等学校振興会報「まつら」の記念すべき第一〇〇号発行、誠におめでとうございます。これまでの発行に携わって下さった皆さま方に心から感謝申し上げます。

さて振興会総会につきましては今年度も書面による実施となりました。これで三年連続での書面開催となりました。皆さまには書面の早期提出、貴重なご意見、各議案を承認いただき重ねて感謝申し上げます。次回こそは集合による開催となりますことを心より願っております。

本年度、振興会会長を務めさせていただきます濱道正和と申します。昨年度は副会長をさせていただいておりました。会長という大役は初めてですので至らない点もあるかと思いますが、少しでも皆さまのお役に立てるよう全力を尽くします。どうぞ皆さま、一年間よろしくお願いいたします。

二〇二〇年三月に新型コロナウイルス特別措置法が成立してから早くも二年の月日が流れました。現在の三年生の生徒たちは入学と共にコロナに影響を受け、コロナと共に過ごしてきた高校生活とも言えます。まだ先は見通せませんが、様々な場面で少しずつではありますが解決への兆しが見え始めています。今年度も学校行事や振興会活動の中止、規模を縮小しての開催となるかもしれません。しかし可能な限り本来の形での開催となるよう工夫をしていきます。学校と保護者が連携を強め、知恵を出し合い、教育の中心にしっかりと子供を置いて活動をして参ります。本年度も皆さま方のご協力をお願い申し上げます。

ごあいさつ

校長　下村　昌弘

三年目に入ったコロナ禍もようやく終息の兆しを感じさせてくれていますが、それは日常を取り戻したいという見えざる人間の欲求ゆえかもしれず、まだ感染者が収まり切れていない以上、本当の安心はもう少し先のようです。

それでも学校は、行事の精選やオンライン等、コロナ禍の経験を生かしながら継続した学びを進めています。

こうした中、振興会会員である保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また平素より本校の教育活動の充実のために、物心両面にわたり御理解と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて私は、本年度、多久市立東原庠舎中央校から異動してまいりました下村昌弘と申します。

前任校は小学校と中学校が一体となった義務教育学校でした。地域で温かく見守られ育まれた六歳から十五歳までの子どもたちがどのようにして生活規律を身に付け、学習を積み重ねていくのか、そしてどのように進路意識・キャリアプランを形成し、高校や就職への道のりを辿っていくのか、その成長の過程を目の当たりにしてきました。

唯一無二の魅力づくりが標榜されてきている今日、そうした経験に培った知見を中学生から選ばれる学校づくりに役立てていきたいと思っています。

本校は明治四十年に「女性に高等教育の機会を」という社会の要請に応え、唐津女学校として開校、今年百十五周年を迎える県内でも有数の伝統校です。一世紀以上続くということは並大抵のことではありません。

近年では英語コースの設置や文部科学省事業スーパーイングリッシュランゲージハイスクールの実証校などグローバル社会へ対応した教育実践を行ったり、通常の学力テストとは違った視点から受検生の資質能力を測る前期入試（県内四校のみで実施）を実施したり、多様な人材の育成という時代のニーズに応えた取組を進めてきた学校です。

その意味で唐津西高校は新しいことに果敢にチャレンジしていく佐賀県のパイロット校としての役割を担い、パイオニア的な教育実践校であると感じています。

こうした姿勢は連綿と受け継がれ、「朝に希望　夕べに感謝」「師弟同行」という建学の精神のもと、在校生も夢や志をもって自ら努力し、周囲への感謝の気持ちをもって協働することを厭わない、凛とした姿勢があります。私自身あらためて気を引き締めて本校教育に当たらねばと感じているところです。

制服もセーターやベスト、ローファーなど、とてもいいコーディネートで品格を感じます。御家庭の経済的な御負担や様々な御意見もあるかとは思いますがいい伝統として受け継いでいただければと思っています。

本校は進学面も大学入試において大きな躍進を遂げました。昨年度は佐賀大十名をはじめ九州、中四国の国公立大に計二十八名（前年十八名）の合格。また、私立大においては、西九州大、福岡大等、合計百十五名の合格者を出すことができました。

さらには、短大や専門学校、公務員試験にも多数の合格者を出しています。本校が目標としている地域社会の未来を担う人材を育成する教育活動の成果の現れだと思っています。

いわゆる〝全人教育〟を目指す本校はその他各方面で活躍しています。感染症対応による活動の制約が断続的に続く中、運動部・文化部ともに限られた時間を有効に使い鍛錬に励み優秀な成績を収めました。

今年度の県高校総体ではボート部、ヨット部、ソフトテニス部、弓道部の全国大会、九州大会出場を筆頭に、全ての部活動において全力を出し尽くしてくれました。

ボランティア部や家庭研究部においても、協定契約にある未来ギフトや唐津フードバンクとの強力な協働により、春先から地域活動に積極的に参画し新聞やテレビ・ラジオでも取り上げていただいています。

まだまだ今年度は始まったばかりですので、どの部活動においても二学期、三学期の更なる活躍が楽しみです。

ところで、Society 5.0の時代の到来が叫ばれている今、例えば新型コロナ感染症やソ連のウクライナ侵攻といった、未知の課題に対し価値観の異なる他者と協働しながら最適解を見出していく力が必要です。

それはいわば、ジクソーパズルのように一定のフレームの中でいかに早くピースをはめ込んで正解を導き出すかというものではなく、形の異なるブロックを試行錯誤しながら組み合わせて立体像を作っていく創造的な営みだと言えます。しかも協働で。

こうした中、本校は地域社会の未来を担う志のある人材を育てるという教育目標（右図）を掲げ、県教育委員会事業〝コラボレーションスクール〟の指定を受け、地域とともに歩むコミュニティスクールとしての取組を推進することとしています。

地元唐津をフィールドに「地域社会の問題がどこにあるのか」「なぜそれが問題なのか」「その問題をどのように解決していくのか」自ら深く考え、自分なりの答えを見出していく活動を行っていきます。そうしたフィールドワークをとおして自分の強みを見出し、進路選択、将来の生き方を切り開く力を育成していきます。

本校の伝統には「双松」があります。まさに二本の松が互いに寄り添い人間的なつながりを大切にしながら一人一人が人間としての魅力を蓄えることができるよう日々の教育活動に専心して参ります。

保護者の皆様には、引き続き本校教育活動への御理解と御支援を賜りますようお願いし、ご挨拶といたします。

なお末筆ながら、在校生に向け月二回、学校長としてのメッセージ『Go West !』を示し、併せて学校HPに掲載しています。皆様にもご覧いただければ幸いです。メールアドレスも載せていますので御意見、御要望はそちらまで。

学校HP